

§1 スカウトのキャンプについて

●セッションの目標 (参加者はこのセッション終了時に次のことが達成できる。)

1. スカウトのキャンプとは何かを知る。
2. 何のためにキャンプを行うのかを知る
3. スカウトキャンプの種類と必要な条件を知る。

●指導上のねらい・ポイント

1. どうしてボーイスカウトはキャンプを行うのか、それはどんな意図をもって、どんな効果を狙って、どのように行なわれるのかを、ここでは知る。
 - ① スカウト・キャンプと一般のキャンプとの違いについて。
 - ② スカウト・キャンプが意図するもの・こと (意義) とそれを実現させる方法について。
 - ③ スカウト・キャンプを行うに当たっての団内のルール、上部組織や行政等の手続について。
2. ビーバーはキャンプを行わない。カブは3つの形態がある。ボーイは班もしくは隊の固定キャンプが主で、ベンチャーは、それにソロと移動キャンプが加わる。これらを行うためには、どんな条件を満たすことが必要なのかを知る。
3. 「楽しいスカウティング」「楽しいキャンプ」→自らそれを楽しくしていく。これがスカウティングの基本である。これを外してしまったら、もはやスカウティングでないことを重々承知していただきたい。

●セッション展開にあたっての留意点

1. 「指導者のためのスカウト・キャンプ」をテキストにして座講で行う。
2. 参加者の経験度を把握するために質問をしながら、ボーイスカウトの独特の方法である「野外での活動」の重要性の理解へと誘う。
3. 技能については、「知っているだけではダメ」「体験してはじめて理解できる」ことを、この研究会を通して感じとる…という意識を持たせる。体験によって理解できれば、それが身につき自分のモノとなる。そうすればスカウティングやキャンプが「楽しく」なっていく。
4. 得意なもの・できるものに取り組むのではなく、苦手なもの・できないものこそやってもよう！ より詳しく知ろう！

●準備品・名称 (規格) (数量)

- ・ (各自) 参考書「指導者のためのスカウトキャンプ」
- ・ ホワイトボード、マーカー (黒・赤・青)、磁石。または、プロジェクターとスクリーン、ポインター)

●他のスタッフへの依頼事項

【他の講師に】

- ・ この研究会の方向性を明確にする最初の講義なので、コンセンサスをとるためにも全員が参加する。

【業務・奉仕スタッフに】

- ・ この研究会の方向性を明確にする最初の講義なので、コンセンサスをとるためにも全員が参加する。

●セッション構成と展開

- 講義 (45 分) →実習 (0 分) →まとめ (5 分)

《導入》(5分)

1. ボーイスカウトの活動フィールドは、
 - ビーバースカウト・・・ 「**戸外** (家のまわり)」
 - カブスカウト・・・ 「**屋外** (住宅地、集落など人工的なものの周囲)」
 - ボーイ以上・・・ 「**野外** (自然が残っている地域)」
 である。これは、それぞれの部門のスカウトが周囲の環境から受ける影響とスカウトの成長からみた対応力を考慮して設定されたものである。
2. 「野外」というフィールドでは、それを実施・受容するには、「体力」「知力」「精神力」「技術力」「協働力」がある一定レベル育っている・備わっていることが求められる。そのレベルがあって初めて、スカウト運動が求めている「自分自身への成長の関わり」に取り組むことができる。これらの意味を考え、ビーバー「戸外」、カブの「屋

外」、ボーイ以上の「野外」の活動フィールドとスカウトが受ける影響と効果を考え、カブ、ボーイ、ベンチャーが行うキャンプの意味と意義について考えていこう。

《展開》(40分)

1. どうしてボーイスカウトはキャンプを行うのか、それはどんな意図をもって、どんな効果を狙って、どのように行なわれるのかを、ここでは知る。

①スカウト・キャンプと一般のキャンプとの違いについて理解させる。

○一般のキャンプとスカウトキャンプの違いを明確にし、それはどのような運営によって効果が現れるのかを伝える。

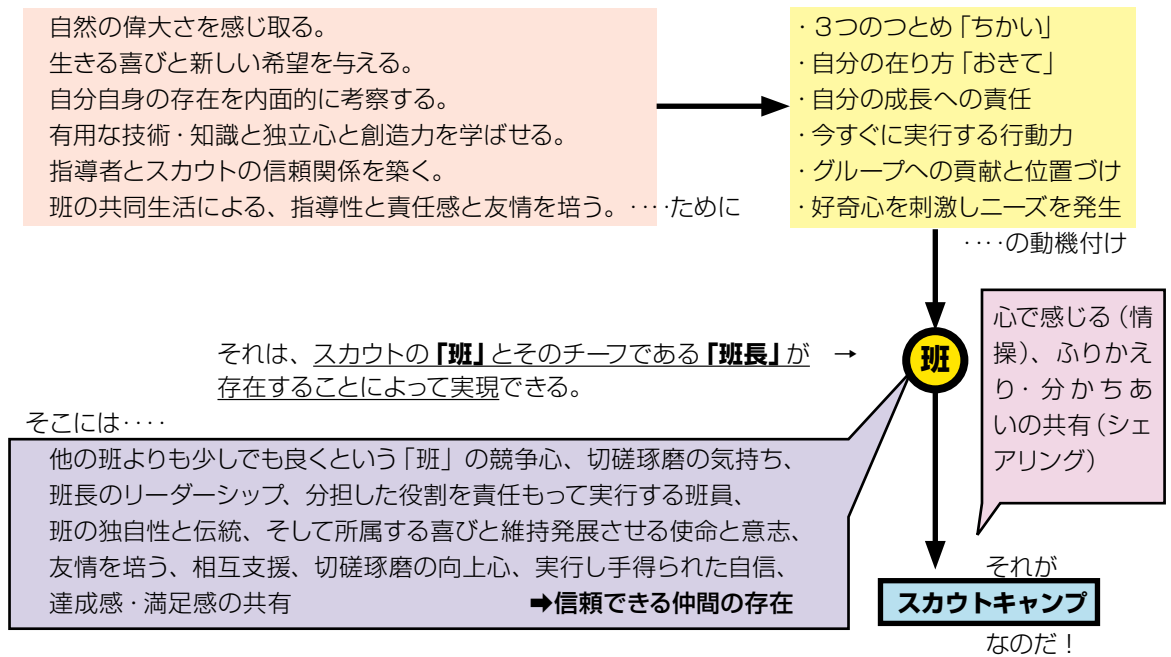
◆一般のキャンプは、キャンプすること(野外でテントを張って泊まり、楽しむこと)そのものが目的。スカウトのキャンプとそこが大きな違いである。

→ スカウティングにおけるキャンプとは、キャンプすることが目的ではない。

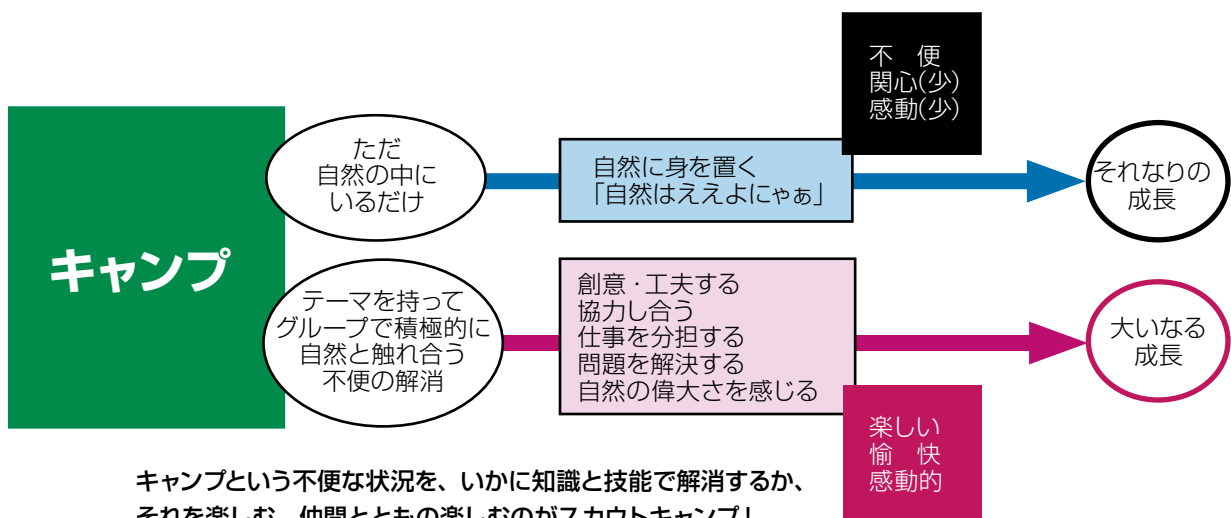
→ それはスカウト教育を効果的に行うための方法である。

②スカウト・キャンプが意図するもの(意義)とそれを実現させる方法について理解させる。

CGG P.10 掲載



…これら「真のスカウティング」をスカウトたちに行わせる絶好の機会!!
 では、これらはどんな状況で、どのように導き出すことができるか……



キャンプという不便な状況を、いかに知識と技能で解消するか、それを楽しむ、仲間ともの楽しむのがスカウトキャンプ!

何で楽しいのか? それは、創意工夫したことが、すぐに結果として表れるつまり不便が改善されるのを目の当たりにすることができるからだ!

③スカウト・キャンプを行うに当たっての団内のルール、上部組織や行政等の手続を理解させる。

ここでは、キャンプを行うにあたって、どのような手続が必要なのかを知らせる。(講義)

○参考図書「指導者のためのスカウトキャンプ」第1章 §3「スカウト・キャンプの規則」を用いて説明。

枠内の「一般方針」と1から6までのそれぞれのキャンプについて、その申請と許可の手続き、指導者として知らなければならないことを明確に伝える。

○そして、キャンプを指導する隊指導者の野営技能の修得(P.72.(2))は必須である。

ボーイ隊以上のキャンプを実施する場合(ソロ、班キャンプも含めて)は、隊長(キャンプマネージャー)は野営法研究会 Step2 を、分担役務の長の指導者(キャンプチーフ)は Step1 終了していることが必要である。

CGG P.18 掲載

区 分	実施責任者	申請者	許可者	届け出
ビーバーの舎営	ビーバー隊長	ビーバー隊長	団委員長	地区コミッショナー*
カプホリディ(舎営)	カプ隊長	カプ隊長	団委員長	地区コミッショナー*
カプのキャンプ(テント泊)	カプ隊長	カプ隊長	団委員長	地区コミッショナー*
ボーイの班キャンプ	班長	班長	隊長	団委員長、地区コミッショナー*
ボーイの隊キャンプ	ボーイ隊長	ボーイ隊長	団委員長	地区コミッショナー*
ベンチャーのソロキャンプ	実施者	議長	隊長	団委員長、地区コミッショナー*
ベンチャーの班キャンプ	班長	(上級)班長	隊長	団委員長、地区コミッショナー*
ベンチャーの移動キャンプ	実施者代表	議長	隊長	団委員長、地区コミッショナー*
ベンチャーの冒険旅行	チームリーダー	チームリーダー	隊長	団委員長、地区コミッショナー*
ベンチャーの隊キャンプ	議長・隊長	隊長	団委員長	地区コミッショナー*
ローバーの遠征	実施者	実施者	隊長	団委員長、地区コミッショナー*
県外で行う上記のキャンプ	隊長	団委員長	県連理事長	県コミッショナー(県連事務局)
日本・世界ジャンボリー	事業責任者	団委員長・地区コミ	理事長・県コミ	最終的な許可者は日連理事長
海外遠征キャンプ	事業責任者	団委員長・地区コミ	理事長・県コミ	最終的な許可者は日連理事長

※「地区コミッショナー*」は、担当部門の地区副コミッショナーに業務委任されている場合もある。

○このように、団に於けるキャンプの実施については、団会議、団委員会の議を経て「団委員長」が、地区においては「地区コミッショナー」が把握することとなっている。そのために表の右列の者への届け出が必要なのである。もし、これらの手続を行っていない場合は、次回のキャンプから早速行うこと。また、県外でキャンプを行う場合は、県連事務局に「県外旅行申請書」を提出し許可を得る必要がある。

※県連事務局から、受領した「県外旅行申請書」の写しが団宛に返却される。それが許可証である。

○これ以外にも、火を使う場合は、管轄の「消防署」に(救急時の救急車の出動要請も含めて)、必ず届け出をすること。

※管理されたキャンプ場で、既設のカマドや焚き火台を使用する場合は、届け出を省略できる場合がある。しかし、管理されていないキャンプ場や直火の焚き火をする場合は、必ず届け出ること。

※上記に拘わらず、キャンプファイアのような大きな焚き火をする場合は、必ず届け出ること。

※「申請」は許可を伴うが、「届出」は許可は不要。

○また、万が一のために参加者全員が「傷害保険」(もしくは「そなえよつねに共済」)に加入していることもルールの一つであること押さえておく。

★資料は「隊指導者のためのスカウトキャンプ実施ガイド」を参照


2. ビーバーはキャンプを行わない。カプには3つのキャンプ形態がある。ボーイは班もしくは隊の固定キャンプが主で、ベンチャーは、それにソロと移動キャンプが加わる。これらを行うためには、どんな条件を満たすことが必要なのかを知る。

スカウトのキャンプの種類とその違いについて、きちんと伝える。(講義)

○各部門におけるキャンプ

ボーイスカウト日本連盟では、ビーバー部門の宿泊を伴うプログラム(舎営も野営も)は、一部の例外

を除いては、実施していない。ということは、実際にキャンプを行うことができるのはカブ部門以上となる。ただし、キャンプを実施するには、それぞれの部門で行うキャンプの目的を知り、また、求められる実施条件を満たさなくてはならない。

目的	カブ部門	ワクワクドキドキする、自然を感じる、好奇心が旺盛になる、観察する、知る、聞いたり調べたりする、知らないことを人に聞く	 進歩・成長
	ボーイ部門	自分で主体的に取り組む、挑戦する、工夫する、楽しいことを生み出す、がんばる、あきらめない、やればできるんだ	
	ベンチャー部門	達成する、美しいと感じる、危険を察知する、とっさに判断する、環境への関心が高まる	
	ローバー部門	生きている実感が高まる	

○さて、キャンプは、大きく「カブのキャンプ」と「ボーイ以上のキャンプ」に大きく分けられる。

次の表は、各部門のキャンプについてまとめたものだ。

このコースでは、基本的にボーイ隊以上のキャンプについて研究していく。カブ・ローバーの指導者も参加しているので、また、ボーイ隊・ベンチャー隊の指導者にも、その違いを知ってもらうことも大切なので、ここでそれを示す。

CGG P.14 掲載

ローバー部門	◎キャンプは行わない、見学するだけ。 ※舎営については、別途示した条件を全て満たしたときに実施 1 泊 2 日の日程で実施できる。
カブ部門	◎張ってくれたテントに泊まる。テント張りの手伝い。食事作りも指導者や支援成人の手伝いに限られる。また、長くても 2 泊 3 日。 ※舎営の「カブホリディ」、テント泊の「カブのキャンプ」、日帰りの「カブのデイキャンプ」がある。組キャンプという形態はなく、全て隊キャンプとなる。
ボーイ部門	◎自分達でテントを張り、生活する。野営法の基礎技能を身につける。 ※実施単位別に、「班キャンプ」「隊キャンプ」 期間別に、「1 泊キャンプ」「ウィークエンドキャンプ」「長期キャンプ」とあるが、基本的に固定キャンプ。
ベンチャー部門	◎野営の基礎技能を深め、応用する時機。 ※実施単位別に、「ソロキャンプ」「班キャンプ」「隊キャンプ」 期間別に、「1 泊キャンプ」「ウィークエンドキャンプ」「長期キャンプ」 実施形態別に、「固定キャンプ」「移動キャンプ」
ローバー部門	◎サバイバル訓練、遠征。ワークキャンプ。

このように、ボーイ以上のキャンプでは、そのほぼ全ての作業をスカウトが行うのに対して、カブのキャンプでは（カブがテントを張ったり、炊事をするのではなく）指導者が主体となってテントを設営したり、炊事場を作ったり、調理するのであって、カブはその手伝いをするという位置づけになっています。これは、カブには、サイトを設営したり自然の変化に対する生活を自分でする体力も足りなく、それにキャンプに必要な技能の習得もしていない・・・という理由からです。

ということは、カブのキャンプを実施するということは、カブの指導者に大きな負担がかかる・・・ということです。そのため、指導者の経験や技能によっては、常設のキャンプ場に張ってあるテントを利用したり、指導者や支援者がテントを張り、必要な施設・設備を整えてから、カブスカウトを迎えるということもおこってきます。

「そうであれば、キャンプ・マネージャーの資格なんていらんではないか！」と単純に考えないでください。建物でなくテントに寝かせるということは、カブの子ども達にとっては大きなリスクが伴うのです。成長したボーイスカウトでは起こらないこと、例えば、テントのチャックを開けること、懐中電灯を自分で管理すること、夜の闇の恐怖、暑さや寒さの調整、トイレやおねしょなど、カブ隊年代ならではの注意すべき事項にまで意識を向けなければなりません。それを含めてのキャンプ・マネージャーなのです。

このように、カブの指導者と言えども、体力はもちろん、ボーイ隊の指導者同様の野営技能が求められ、かつ、ボーイ以上に安全面や生活面への配慮や対応が必要となるのです。

※カブの宿泊プログラムについては、下記の実施条件が条件が満たされていない場合、及び資格がない隊長（若しくは副長）が行う「カブのキャンプ」は、地区コミッショナーから認められないことを知らせる。

◆は「カブホリディ（舎営）」の実施条件である。

★カブのキャンプとボーイのキャンプの実施条件の主な相違点

項目	カブスカウト	ボーイスカウト
主旨	基本は宿舎での宿泊プログラム。諸条件が整ったらテントに泊まってみる。	個人の成長を促すために、自然の中で班を単位とする野営を行う。
実施単位	隊キャンプのみ（組キャンプはあり得ない）	隊キャンプ、班キャンプ
テント	組全員+ DL が泊まれる大きな家型テントかドームテント	班用家型テントか班用のドームテント。但し男女のテントは分ける。
日数	ウィークエンド1泊キャンプ サマーキャンプ2泊3日以内	デイキャンプ、1泊キャンプ、ウィークエンドキャンプ サマーキャンプ（3～7泊）
雨・風	ひどい雨・風の際は建物等の避難所に避難できること。 または、撤退して帰宅できること。	雨、風は関係なし
指導者	最低でもキャンプ・マネージャーの資格を持つ隊長（副長）1人。その他に副長2人（副長もStep1以上を修了していることが望ましい）。そして、各組にデンリーダー。（DLはスカウトテントに宿泊）	野営法研究会 Step2 修了の隊長1人。同研究会 Step1 修了の副長2人以上、その他
支援者	Step1 修了者の他隊指導者・団委員のほか、保護者、インストラクター等5名以上。	奉仕者3～5名（他隊指導者・団委員のほか、保護者等）。ベンチャースカウトでも可。
プログラム	基本的にボーイ隊と同じだが、健康を損なわないものであり、心理面でも体力面でも無理がないもの。営火はカブ向きに。	追跡、忍び寄り、ゲーム、スタンツ、ワイドゲーム、自然観察、コレクション、スケッチ、野営料理、班営火、隊営火、歌、ダンス、工作、ハイキング、運動等
キャンプの運営	隊長の指示により、指導者・支援者が行う。	上級班長の下、班長の話し合いにより自主的に運営するのが基本。
野営装備の運搬	基本は指導者及び支援者	隊装備は、指導者及び支援者。班装備は各班で。
場所	団所在地の近くの屋外で、野外の雰囲気を感じられる平地（空き地、草地・林等）で、かつ近くに避難できる場所があること。 上水道や便所が整っているところ。	遠隔地。自然環境が豊かな野外。人家の側ではないが、連絡のとれる場所。基本的に山岳キャンプ、移動キャンプは行わない。 近くに飲料に適する水が得られるところ。
実施季節	基本は、春から秋にかけて。（茨城では4月～10月）	1年中。条件が整えば、雪中キャンプも可。
設営・撤営	指導者や支援者が主体となり、カブスカウトは手伝いをする。	全て自分達で行う。
炊事	指導者や支援者が主体となり、カブスカウトは手伝いをする。	全て自分達で行う。
交通	支援車両が直近まで入れるところ。	特に指定はないが、緊急車両が直近まで来られるところ。
連絡	携帯電話の通信エリア内。	携帯電話の通信範囲であれば申し分ない。
その他	周辺に医療施設、食料調達ができるスーパー等があるところ。	近郊に医療施設、食料調達ができるスーパー、野営資材が調達できるホームセンター等があるところ。

4. 各部門におけるキャンプの実施条件

全ての隊で実施されるキャンプについては、それぞれの隊のキャンプ実施の基本条件をクリアする前に、まず、この**共通条件**を満たしていなければ、キャンプ実施することはできません。それは・・・

【共通条件】

- 実施計画書が、団会議、団委員会に提出されていること。
- 団会議、団委員会の議を経て、団委員長の許可を得ていること。
- 事前に、地区コミッショナーに届け出をしてあること。
- キャンプの実施運営組織が整い、スタッフが確保されていること。
- 安全体制、避難体制、緊急連絡体制が整っていること。
- 行政、県連、消防・警察等への必要な届出・申請がなされていること。
- 実施部門のキャンプマネージャーの有資格者がキャンプの全期間キャンプを総括していること。

です。

・・・で、それは今まで述べてきた、ごく当たり前の事項です。

そして、各隊でキャンプを行うには、この共通条件に加えて、それぞれの部門の「キャンプ実施の基本条件」を満たすことが必要となります。

【スカウトキャンプ実施の基本条件】

- ボーイスカウトは、班ごとに独立したキャンプサイトであること。また、班長を中心とした「班」が編成できること。
- ベンチャースカウト、ローバースカウトは、個人もしくはバディで1つのテントを使用することが望ましい。(男女別)
- 女子スカウトが参加する場合、最低1名の成人女性指導者が参加・宿泊すること。
- 女子ベンチャースカウトの「探検旅行」については、常設の既設キャンプ場、管理人常駐の山小屋やユースホステル、万一の場合を想定して避難可能な場所での「指導者随行」により行うこと。
- ボーイスカウト隊が実施するキャンプでは、隊長はキャンプマネージャーの資格を有していること。ボーイ隊長がキャンプマネージャーの資格を有していない場合は、キャンプマネージャーの資格を有する副長・他隊の指導者が同行していること(ボーイ隊長は就任1年以内に資格を取得すること)。
- ベンチャースカウトが実施するキャンプでは、キャンプ・マネージャーの資格を持つ隊長(もしくは副長)による十分な指導が事前に行われていること。
- 刃物(ナイフ、ナタ、斧、のこぎり、鎌等)工具類は、**野営法研究会 Step1 以上を修了した指導者**の適切な指導及び安全管理の下で使用させること。
- 事前に調整を行い、現地踏査(下見)を実施の3ヶ月以上前と1ヶ月以内の最低2回は実施すること。
- 3泊以上のスカウトのキャンプを実施する際は「キャンプのしおり」を作成してスカウト及び保護者へのキャンプの内容の周知を図ること。
- 安全管理責任者を置くこと。

【カブのキャンプ実施の基本条件】

- 組ごとに独立したキャンプサイトではなく、1つのサイトに指導者テントもカブのテントも配置する等、カブ隊長の十分な管理下におくこと。
- 宿泊用テントの他に、清潔な固定シェルターか防水布のマーキー(大テント)など、荒天時にカブ全員を臨時に収容することのできる施設があること。
- 雨天及び荒天に全員が避難できる宿泊施設が、少なくとも徒歩で30分以内にあること。
- カブスカウトは、それぞれの寝具で寝なければならない。
- カブスカウトと同じテントに、原則として最低1名の成人指導者(女子指導者を含む)が宿泊すること。
- カブ隊24名未満であれば、隊長の他、最低2名の副長、組ごとにデンリーダー1人がつくこと。24名を超える場合は副長3名(最低人数)以上とする。
- Step1を修了した他隊指導者・団委員の他、保護者・インストラクター等5名以上が参加できること。
- カブ隊長(実施責任者)はキャンプマネージャーの資格を有していること。カブ隊長がキャンプマネージャーの資格を有していない場合は、キャンプマネージャーの資格を有する副長・他隊の指導者が同行していること。(カブ隊長は就任1年以内に資格を取得すること)
副長はキャンプチーフの資格を有しているか、修了に向けての努力をしていること。
- また、事前にこれらの指導者が講師となって、隊や組の他の指導者に「キャンプ講習会」を実施することが望ましい。
- 一般のキャンパーから独立したサイトであり、ボーイ隊、ベンチャー隊から適切な支援を受けること。また、炊事を専門に担当する保護者(育成会)のチームを編成して支援を受けることも考慮する。

- 期間は、長くとも2泊3日以内にとどめること。
- 刃物(ナイフ、ナタ、斧、のこぎり、鎌等) 工具類は、資格を有する(野営法研究会 Step1 修了以上) 指導者の適切な指導及び安全管理の下で使用させること。
- キャンプ地は、居住する市町村から近距離を選定すること。
- 事前に調整を行い、現地踏査(下見) を実施の3ヶ月以上前と1ヶ月以内の最低2回は実施すること。
- 2泊以上のカブのキャンプを実施する際は「キャンプのしおり」を作成してスカウト及び保護者へのキャンプの内容の周知を図ること。・安全管理責任者を置くこと。

何度も言うが、ビーバー隊は、宿泊プログラムを実施することはできない。ただし、団行事・地区行事等の事情により、やむを得ず宿泊を伴わなければならない活動をする場合には、安全対策を十分に行い、かつ下記の条件を全て満たした場合のみ実施することができるものとする。

CGG P.17 掲載

【ビーバー隊の宿泊プログラム実施の基本条件】

- ビーバー隊が宿泊を伴う活動へ参加する場合は、団会議で協議し、団委員会の承認を得ること。
- ビーバー隊長(もしくは実施責任者)はキャンプマネージャーの資格を有していること。
- 宿泊は舎営とし、宿泊地は近隣、宿泊数は、1泊2日を原則とする。
- 指導者及び安全管理者による現地踏査(下見) を実施の3ヶ月以上前と1ヶ月以内の最低2回は実施する。
- 引率にあたる指導者は、隊活動において十分な経験を有する者がこれにあたる。(Step1 修了者)
- 指導者、支援者(補助者を含む)の役割分担を明確にし、安全管理者を置く。
- 安全管理のため、スカウト3名に対して成人指導者1名が同行する。(スカウト数が少ない隊においては、成人指導者の割合を50～70%にすること)
- 活動内容を事前に、十分に保護者に説明し、理解させ、協力を得る(保護者同伴であることが望ましい。)
- 就寝時、指導者(もしくは保護者)はスカウトと同室とする。
- ビーバー隊だけの単独での宿泊を伴う活動は実施しない。

5. スカウトキャンプを行うに当たっての指導者の在り方

上記のように、スカウトキャンプがもたらす「教育的効果」はたいへん大きいものです。

つまりは、キャンプを運営・指導する指導者自身が、このことを十分にそれを理解し、それが実現できるための知識・技能・方法・規則等(これらを「野営基準」という)を身に付け、それをキャンプでの生活指導やプログラムに活かせることが、スカウトキャンプを実施する上での大前提となります。

また、前にも述べましたが、ボーイスカウトという組織と名前の下でキャンプを行うということは、キャンプの「質」が確保されていることが求められます。つまり、万一事故が発生したときに、民事・刑事責任から指導者を保護し、保険に対して適切な執行を求めると同時に、保護者や地域社会に対してボーイスカウトの指導者の位置づけを明確にする等、組織としての責任体制をきちんとしておく必要があるのです。

そこで、茨城県連盟では、県内のスカウトが等しくこのキャンプにおける成長への効果を受容することができるように、責任のあるキャンプ運営がなされるように、各隊の指導者に対して、県定形訓練として

「野営法講習会」

「野営法研究会 Step1」

「野営法研究会 Step2」

を実施し、段階を追って、必要な知識や技能の修得を求めています。ここでは、キャンプの技能だけではなく、スカウトキャンプの意義に始まって、キャンプ基準、企画・計画・準備、用具の選び方・扱い方・メンテナンス、設営技能、安全、工作、炊事、衛生管理、撤営技能、報告・記録など、スカウトキャンプの基本を一通りを修得できるプログラムを提供しています。

その中で、指導者は具体的には次の6つを体得します

CGG P.11 掲載

- | | |
|------------------|-----------------------|
| ①自らキャンプを楽しむこと | ④キャンプの効果を身をもって体験すること |
| ②求められる精神・意識を知ること | ⑤すべてのことの根拠を考へること |
| ③キャンプの規律を知ること | ⑥キャンプをすると自分自身が元気になること |

これをこの野営法研究会等で是非とも感じ取ってください。

《まとめ》(5分)

1. キャンプを安全に安心して行うためには、全ての指導者が、各部門のスカウトキャンプを知っていることが大切。
2. しかし、スカウトにとってキャンプは、楽しく、魅力的な、好奇心たっぷりの活動の場でなくてはならない。
いくらスカウトキャンプが教育を目的としているからと言って、学校の授業や、塾の講義であったり、単なる遊びの場であってはならない。
3. 次の言葉を忘れてはならない。

CGG P.6 掲載

- ・スカウトは創意工夫に満ちている。どのような困難なことや不愉快なことがあっても、(創意工夫で)必ず解決することができる。
- ・キャンピングは、スカウティングには大事なもので、少年達には魅力があり、自立心と創意工夫することを教えてくれる機会であり、健康をもたらしてくれる
- ・求められる精神を備えていれば、キャンプこそ隊長が少年達を夢中にさせることのできるものである。

(SCOUTING FOR BOYS)

- ・好奇心からニーズへと導くこと
- ・班が班長を中心に自ら取り組むように仕向けること
- ・振り返りによって、気づきを起こさせ、それを確認できる環境(気づきから行動へ)を整えること

キャンプには、

- ・キャンプそのものが子どもの成長をもたらす
- ・自然の中での生活をもたらす
- ・グループによる活動、共同生活をもたらす
- ・新しい体験をもたらす

そんな効果がある。

(信州大・平野吉直教授)

4. キャンプがスカウトにとって魅力的な場であるために、指導者として是非これらのことを身につけてもらいたい。

5. スカウティングが求める発達とは

CGG P.6 掲載

- ・自主自律性(自ら進んで積極的にことを成そうとする自発性) →自発活動
- ↓
- ・「やればできる」という自信と忍耐力
- ↓
- ・運動感覚の発達(器用さ、身のこなし)
- ↓
- ・観察力、注意力が増す
- ↓
- ・対象に対する深い知識、高い技能が身につく
- ↓
- ・行っている作業を好むようになる
- ↓
- ・情緒が安定する
- ↓
- ・他人への親切と愛情、相互協力と奉仕の心が育つ
- ↓
- ・規律と秩序を重んじ、従順さが養われる
- ↓
- ↓

一個の人格としてトータルに発達を遂げていく

スカウティングとキャンプ

● B-P 最後のメッセージより

神様は、一生幸福で楽しく暮らせるよう、私たちをこの世界に送ってくださったのだと私は信じています。幸せというのは、お金持ちになったり、単に仕事上で成功したり、思い通りのわがままができることではありません。幸せになる第一歩は、子どもの間に健康で強い体しておくことです。そうすれば、あなたがたが大人になった時お役に立つことができ、人生を楽しむことができるのです。自然研究というものは、この世界が、美しいものや素晴らしいもので満ち満ちていることを教えてくれるでしょう。それは神様が、そういう世界をあなたがたが喜んで受け入れるように贈ってくださったことを示しています。あなたがたの得たもので満足し、それを最もよく生かすようにしなさい。

このように「健康」「情緒」「協調」「観察」「推理」「発見」「驚嘆」「感謝」「素直な心」「自発性」「自立心」「自律心」「創意工夫」「仲間」「友情」等を素晴らしい自然から得なさいと言っています。それに気づくこと、感じること、意識すること、そして育むことができるのが自然の中で過ごすスカウトのキャンプです。

また、「班」は人を分けるという意味の他に、仕事を分けるという意味があります。班員各自が自分の分担された仕事を責任をもって実行する、または実行するために努力する。それで班に貢献でき、そして班のレベルが上がっていくことで、他の班との競争に臨む・・・ことは、子ども達の特性を活かした教育方法であり、それが社会人としての基礎の意識を築いていくことは十分に承知していると思います。その効果が顕著に表れるのが班のキャンプなのです。班長のリーダーシップ、班員の任務に対する意識と責任感、班としてのモチベーションと団結力。そしてライバル班との競い合い。このような環境をどう整えていくかが隊長&指導者の腕の見せどころです。

キャンプでは、実に多種多様な作業があります。居住環境をいかに快適にするか、食事をいかに美味しく作るか、それらをより良いものにするために考え、工夫し、何度も実行して確実なものにしていく。そのプロセスを経験することができるのがキャンプなのです。

その結果として、わたしたちが求める「(心が)豊かなキャンプ生活」が獲得できるのです。

設営と炊事に追いまわられては、そんな余裕はありませんからねえ。

●スカウトキャンプの大前提

・キャンプは、スカウティングの中で少年がもっとも喜ぶものである。(AIDS TO SCOUT MASTERSHIP)

→それには **まずは、魅力があって楽しいこと。**

これがキャンプを行う大前提で、もっとも重要なポイント。この気持ちをスカウトが持たなければ、指導者が理解しなければ、そして共にそれを作り上げなければ意味がない。その上で・・・

●キャンプがもたらしてくれるもの

・スカウトは創意工夫に満ちている。どのような困難なことや不愉快なことがあっても、(創意工夫で)必ず解決することができる。

・キャンピングは、スカウティングには大事なもので、少年達には魅力があり、自立心と創意工夫することを教えられる機会であり、健康をもたらししてくれる

・求められる精神を備えていれば、キャンプこそ隊長が少年達を夢中にさせることのできるものである。

(SCOUTING FOR BOYS)

キャンプには、

- ・キャンプそのものが子どもの成長をもたらす
- ・自然の中での生活がもたらす
- ・グループによる活動、共同生活がもたらす
- ・新しい体験がもたらす

そんな効果がある。

(信州大・平野吉直教授)

→ここに、スカウティングのキャンプの意義が見い出せる。**これを知り、確認し、実践により自ら体験すること**が野営法研究会を行う意味。

→指導者としては、具体的には次の6つを体得する

- ① **自らすすんでキャンプを楽しむこと**
- ② **求められる精神・意識を知ること**
- ③ **キャンプの規律を知ること**
- ④ **キャンプの効果を身をもって体験すること**
- ⑤ **すべてのことの根拠を考えること**
- ⑥ **キャンプをすると自分自身(心も精神も身体も)が元気になること**

これをこの野営法研究会で是非とも伝えてください。

※ところで、指導者のためのスカウティングキャンプとは・・・これは、あくまで「指導者」のためのスカウトキャンプである。ということは、はじめに先に述べた「**楽しく魅力あるスカウトキャンプ**」がありきということを忘れてはいけな。このスカウトキャンプをいかに効果的に行うか、安全に行うか、教育的側面を盛り込むか等の運営をもたらすか・・・を考えていくためのテキストなのである。